

部 会 報 告

日工(株)展示会 日工メッセ 2025 見学会報告

機械部会 コンクリート機械技術委員会

1. はじめに

JCMA 機械部会のコンクリート機械技術委員会では、令和7年10月27日に日工(株) 本社工場（兵庫県明石市大久保町江井島 1013-1）で行われた日工メッセへの見学会を実施した。

参加者はコンクリート機械技術委員関係者、事務局含め11名であった（写真-1）。

2. 見学スケジュール

令和7年10月27日（月）

- 13:20 JR 山陽本線 大久保駅（西口）集合
- 13:20~13:30 日工(株)送迎車にて本社工場へ移動
- 13:30~14:00 会議室にて会社事業、製品概要説明
- 14:00~14:20 室内特別ブース見学
- 14:20~16:30 屋外展示製品見学
- 16:30~16:40 大久保駅へ移動・解散

3. 日工(株)

- 創立：1919年8月13日
- 本社：兵庫県明石市大久保町江井島 1013-1
- 代表者：代表取締役社長 中山知巳
- 売上高：491億62百万円（2024年度）
- 事業内容

- ・アスファルトプラント（AP）関連事業
- ・コンクリートプラント（BP）関連事業
- ・環境装置・搬送関連事業
- ・破碎機関連事業
- ・製造請負関連事業
- ・その他事業（仮設機材・防水板等）

AP 関連事業では8割近い市場シェアを誇るアスファルトプラントのリーディングカンパニーとして日本のインフラを支える企業となっている。

■日工グループ会社

日工電子工業、日工マシナリー、宇部興機械、松田機工、トンボ工業、日工セックほか



写真-1 集合写真

※日工メッセのため特別展示されたコンクリートプラント アスファルトプラント前にて撮影

■日工メッセ

コロナ禍で延期などもあったが日工(株)が三年毎に主催する、日工および日工グループ会社の技術・製品・ソリューションを紹介する展示会。建設機械業界やプラント分野の関係者、自治体、取引先企業などを対象に来場者は予約制となるプライベートな展示会で毎回多くの来場者を迎える。本年開催期間10/20（月）～10/31（金）日程では2,000名を超える来場者が日工グループ各社の技術・製品を一度に見て、体験できる魅力ある展示会となっている。

4. 日工(株)の事業、製品概要説明

見学会では初めに会議室にて、日工の歴史及び事業に関する動画を視聴した。日工はショベルやスコップなどの建築用工具メーカーとして創業し、2019年には創立100年を迎えたメンテナンスサービス力に強みを持つ AP・BP プラントのリーディングカンパニーである。プラント製品において企画・設計から施工メンテナンスまで自社で一貫した生産体制となっており、長年にわたり培ってきたコア技術（混練、加熱、搬送、制御）が他の事業にも活かされている。

プラント関連事業ではプラント総数の減少傾向にあ

るが新設備への投資控えとはなっておらず、活発化の動きがみられている。原材料高騰などコスト高となってしまう製品に対して、多くの顧客要求をカバーできる仕様の標準化や最適なユニット構成化などで改良、新製品開発を推進している。

プラント海外市場では日本開発となる自社製品と海外製品との価格差が非常に厳しい状況下でも市場規模、要求仕様に応じて、中国、タイ、ASEAN などマーケット選択して生産・販売拡大に活動している。

プラントメーカーとしてお客様に寄り添う迅速かつ正確なカスタマーサポートに注力しており、全国のプラントについてリモートメンテナンスが可能な体制を整えている。その成果もありメンテナンスサービスの売上貢献度が高い。

破碎機関連事業においてはドイツ Kleemann 社製品の国内総代理店としての製品販売も順調に成長し売上貢献度が大きくなってきている。

各セグメント事業内容・製品概要説明の後に、本日の見学会メインとなる日工メッセ屋内特別会場および屋外展示物・技術見学時の安全周知、写真撮影の禁止区域についても説明を受けた。

5. 屋内特別会場および屋外製品・技術見学

本社内にあるカスタマーサポートセンター（写真—2）を通り抜けた先にある屋内特別会場では、アスファルトプラントリーディングカンパニーとして従来の延長線上に無い創造として土木 SF と呼ばれる土木オリンピック水泳競技用のアスファルトが題材とされた特別小説や近未来的な移動工場アスファルト生産システムなどもパネル展示されていた。会場を進んでいくと SF では無い日工最新の技術紹介ブースがあり、プラント建設前に内部まで確認できるバーチャルプラント VR 体験やプラント内で発生しうる災害体験 VR ブースもあり多くの来訪者が体験している姿が見られた。自社開発 IoT プラットフォームを採用した、PC だけでなくスマホでも遠隔監視、操作ができる工場管理や保守アプリの紹介などもあった。

屋外に移動すると、仮設機材の展示があり軽量なアルミ製のフレキシブルに利用できる足場や仮設通路用製品や、災害時での土嚢代わりとなる、こちらも軽量なアルミ製で持ち運びがしやすい防水板製品（写真—3）、残土改良設備などに用いられる自動ミキシングユニット製品（写真—4）、ユニット型流動化処理土製造プラント製品（写真—5）などにつき丁寧に紹介をいただいた。



写真—2 カスタマーサポートセンター／日工 HP より



写真—3 防水板製品



写真—4 自動ミキシングユニット製品

屋外設置パネルブースでは NEDO（（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構）のグリーンイノベーション基金事業プロジェクト活動紹介にて、2030 年に実装にむけての省エネルギー化、CO₂ 固定化技術など開発成果状況をご説明いただきパネルと共にサンプルを見学した。

再資源化につながるアルミ缶やペットボトル分別の装置製品では作業効率改善に寄与する AI を利用した、より高速な処理を実装する DX 進化選別システム



写真一五 ユニット型流動化処理土製造プラント製品



写真一六 DX 進化選別システム製品



写真一七 自走式破砕機

製品（写真一六）や総代理店として販売、アフターサービスに対応しているドイツ Kleemann 社製の自走式破砕機（写真一七）についても製品実機の前でご説明をいただいた。

6. おわりに

建築用工具メーカーとして創業された日工のプラント機械メーカー、環境ソリューション、そして DX・脱酸素技術を担う社会インフラ・エンジニアリング企業への進化を製品技術について見学だけではなく体感できる見学会でありました。

また自社製品のみならず、日工グループ関係会社の製品、技術紹介もあり日工グループとしてのパワーを感じ、日本のインフラを支える企業のさらなる活躍が期待される技術・製品に驚かされました。

日工メッセでは、技術メンバーおよび営業メンバーが会場内を案内する専任担当者として（展示物や技術、製品ごとの説明員も配置されていました）、来訪グループごとにアサインされており、日工グループがお客様を大切にされている姿勢が強く感じられました。

また、説明員をはじめとする若い人材の活躍も多く見受けられ、エネルギーと活力ある雰囲気が会場全体から伝わってきました。

見学では多くの製品・技術展示があり、予定時間内では最後は駆け足となってしまいました。このため、十分に見て回れなかった製品・技術については心残りもありましたが、全体として大変有意義な見学会となりました。

今回の見学会に際し、コンクリート機械技術委員の見学受け入れ調整をはじめ、委員会メンバーでもある日工(株)の川上様、籠谷様、さらに各種ご案内を特別にご対応いただきました竹波様、岡本様、並びに日工メッセ運営関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

【筆者紹介】

池田 周五（いけだ しゅうご）
 プツマイスタージャパン(株)
 技術部
 部長
 (一社)日本建設機械施工協会
 コンクリート機械技術委員会
 委員

